

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月20日
北陸信越運輸局

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・アルビコ交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・すわライナー時計回り線</p>	<p>・すわライナー時計回り線 (※原則毎日運行)</p> <p>日赤病院 ⇒上諏訪駅(霧ヶ峰口)・上社 ⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p>	<p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対してのかりんちゃんバスの周知活動を行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内を行った</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画を計画した。</p> <p>■将来に渡って持続可能な地域公共交通を実現するため、令和5年3月に「諏訪市地域公共交通計画」を策定した。</p>	<p>A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B ■1便当たりの利用者数7.5人/便、年間利用者数84,165人の目標に対し、1便当たりの利用者数は6.3人/便と下回り、年間利用者数は93,642人と上回る結果となった。</p> <p>背景として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があると考えられる。令和5年5月新型コロナウイルス5類移行の前後を比較すると、5類移行前が1便当たりの利用者数6.1人/便だったことに対し、5類移行後は6.7人/便と目標には届いていないが、増加傾向にある。</p>	<p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>■利用者の利便性向上のために、時刻表の見直しを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果		
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果		
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・諏訪交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・かりんちゃんバス東山線反時計回り ・かりんちゃんバス東山線時計回り ・かりんちゃんバス東西線反時計回り ・かりんちゃんバス東西線時計回り</p>	<p>・東山線反時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒日赤病院⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p> <p>・東山線時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒尾玉町入口⇒上諏訪駅(諏訪湖口)</p> <p>・東西線反時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒新田上</p> <p>・東西線時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖口)⇒新田上</p>	<p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対してのかりんちゃんバスの周知活動を行った。</p> <p>・「広報すわ」を活用した利用案内を行った</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画を計画した。</p> <p>■将来に渡って持続可能な地域公共交通を実現するため、令和5年3月に「諏訪市地域公共交通計画」を策定した。</p>	A	<p>事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	B	<p>■1便当たりの利用者数7.5人/便、年間利用者数84,165人の目標に対し、1便当たりの利用者数は6.3人/便と下回り、年間利用者数は93,642人と上回る結果となった。</p> <p>背景として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があると考えられる。令和5年5月新型コロナウイルス5類移行の前後を比較すると、5類移行前が1便当たりの利用者数6.1人/便だったことに対し、5類移行後は6.7人/便と目標には届いていないが、増加傾向にある。</p>	<p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>■利用者の利便性向上のために、時刻表の見直しを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。</p> <p>なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果
諏訪市地域公共交通活性化協議会	<p>■事業者名 ・諏訪交通株式会社 ・アルピコタクシー株式会社 ・第一交通株式会社</p> <p>■運行系統名 ・かりんちゃん子バス大和四賀線</p>	<p>・かりんちゃん子バス大和四賀線(※原則毎日運行) 聖母寮前⇒上諏訪駅(霧ヶ峰口)⇒神戸公民館前</p>	<p>■市内を運行する公共交通全体の利用促進を図るため、市民に対してのかりんちゃんバスの周知活動を行った。 ・「広報すわ」を活用した利用案内を行った</p> <p>・諏訪市社会福祉協議会と連携し、高齢者を対象とした無料体験乗車企画を計画した。</p> <p>■将来に渡って持続可能な地域公共交通を実現するため、令和5年3月に「諏訪市地域公共交通計画」を策定した。</p>	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ■1便当たりの利用者数7.5人/便、年間利用者数84,165人の目標に対し、1便当たりの利用者数は6.3人/便と下回り、年間利用者数は93,642人と上回る結果となった。 B 背景として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響があると考えられる。令和5年5月新型コロナウイルス5類移行の前後を比較すると、5類移行前が1便当たりの利用者数6.1人/便だったことに対し、5類移行後は6.7人/便と目標には届いていないが、増加傾向にある。	<p>■目標値の維持及び向上に向け、市内で運行する公共交通全体の利用促進を図るため、引き続き市民に対しての周知活動やイベント等でのモビリティマネジメント事業を継続的に実施する。</p> <p>■利用者の利便性向上のために、時刻表の見直しを実施する。</p>	<p>協議会における事業評価結果の③及び④については自己評価のとおりである。 なお、⑤の目標・効果達成状況については、新型コロナウイルス感染症の影響以外の観点からも目標が達成されなかった理由について分析し、これを明らかにする必要がある。その上で、⑥の事業の今後の改善点については、実績向上に向けて新たな改善策及びその具体化についても改めて検討し、その実施について地域一体となって適切に進めていくとともに、今後も適切な検証を行い、地域公共交通のさらなる持続性向上や利用促進が図られるよう期待する。</p>